

命をつなぐ、人と地域のつながり

～東日本大震災の教訓から学ぶ「つながり」とは？～

【報告 大菌 拓郎】

2013年3月2日(土) 岸和田市立サン・アビリティーズ『自立生活センター・いこらー 第1回公開セミナー』「命をつなぐ、人と地域のつながり」～東日本大震災の教訓から学ぶ「つながり」とは？～のコーディネーターをさせて頂きました。

2011年3月11日に東日本大震災において甚大なる被害をもたらし、多くの人びとの命が奪われました。特に障害者の方々も命を奪われ、または被災後の避難生活で多くの困難にさせられる現実がありました。わたしは震災の障害者支援ボランティアとして、主に宮城県で1年3ヶ月の活動をしてきました。その活動については前号「いこらー通信」に書かせて貰いました。

今回はその活動において被災された方と被災したにも関わらず、障害者支援をされた二人を岸和田に招き、震災の現実と被災時の障害者支援について講演して貰いました。今回の企画の意図としては、震災の現実を被災者の方から直接語って頂くと同時に、被災地の障害者の現実とその支援のあり方を、岸和田の方々に知って頂き、今後、必ず起こるであろう震災に対する防災について参考にして頂ければとの思いでした。また、岸和田とは距離的に遠い、宮城県南三陸町の方々と、人と人が、地域と地域が繋がる切っ掛けとなり、今後数年は続くであろう震災の傷跡を一緒に乗り越えていく架け橋になる意図もありました。

セミナーには30名程の参加者に来て頂き、大変感謝しております。参加者の真剣な眼差しと期待に、わたしは答えられたのか少々不安を感じながらの講演でしたが、防災について真剣に考えてくれた方や、実際に南三陸町に赴きボランティア活動をされた方々もいて、南三陸町と岸和田の人と人の、地域と地域の繋がりがとなる一助になれたのかなと胸を撫で下ろしています。

被災地障害者支援ボランティア活動を通じて最も教えられた事は、人と人の繋がりが命を救い、また人生の希望にもなるということです。今後も被災地の支援企画を実行しますので、その折にはご協力のほど、宜しくお願いします。



先日はお伝えする機会をいただき、本当にありがとうございました。被災し、避難し、津波で建物の7割が流出した地域で生活しつつ支援者としても生きている私たち。

この経験がみなさんの防災や復興について考える一助になれば・・・という気持ちでお話をさせていただきました。

当日は災害への備えについて4種類お伝えしました。一つ目は物。食料や水、薬や懐中電灯などライフラインが途絶えた場合に、まず自分や家族の生活を守る物です。二つ目には行動。身を守り逃げる。家族や近所の方々などと、避難場所や避難路、連絡方法を確認しておくことも今できる防災です。今回のように携帯電話も使えない状況では、普段からの情報の共有がとても有効でした。でもその物も行動も逃げようという心の準備がないといけません。だから、三つ目には意識。今回も、ここは大丈夫だろうと逃げなかったという悔やみきれない話を何度も聞きました。自分の身は自分で守る、自分で考えて自分で行動する、といったことを日頃から意識しているだけでも、有事に適応しやすい心体が養われると思います。そして四つ目が、今回の命題でもあるつながりの構築です。これは震災時の共助を自然な形で機能させるために、今だからこそ出来る大切な防災だと思えます。つながりを作るなんて組織的に考えると大変ですが、自分一人でも出来ますね。例えば、社会参加を心がける、大切な人と温かな関係を持ち続けるなどです。そういう関係を持っていれば、そこにはステキな共助が生まれ、ひいては災害に強い地域につながるのではないのでしょうか。結局、地域も国も個人の集まりなのです。あのような大災害が起これば、またきっと無数の哀しみが生まれるでしょう。相手は地球なのでそれは仕方ありません。でも、その中であっても、少しでも幸せに生きたい、大切な人を守りたい。そう準備するのが、防災だと思っています。

当日はたくさんの方々の真剣なまなざしに会え、とても嬉しく充実した時間でした。会場にいらっしゃったケンちゃんは、その後私たちの子ども広場へ何度もお越し下さり、美味しい焼きを子どもたちに振る舞ってくれています。素敵なたがりをいただきました。皆様も、もし東北へお越しになることがあれば、ぜひ南三陸の私たちへも足を伸ばして下さい。キラキラした子どもたちとお迎えいたします。このたびは本当にありがとうございました！

(NPO法人奏海の杜 (旧被災地障がい者センター南三陸) 事務局 太齋京子)

